

世界遺産を目指す藤原宮跡巡り

歴史サークル 檀原市内で月例会を実施

2026年2月20日(金) 20名が参加

10:00～14:30

案内担当：古川(17期)、水野(25期)



本薬師寺東塔基壇跡

とも世界遺産の構成資産となっています。

本薬師寺は天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病
気平癒を願って創建され、



本薬師寺跡金堂礎石跡

コースは、「飛鳥・藤原宮都」世界遺産候補の檀原市構成資産である藤原京の「本薬師寺跡」「藤原宮跡」を中心に巡りました。

「本薬師寺跡」(檀原市城殿町)は、藤原宮の南側において大官大寺(明日香村小山)と東西に並んで位置し、当時を代表する国家護持の官営寺院です。両寺

現在の薬師寺(奈良市西ノ京)の前身となった寺院です。金堂正面の東西に2つの塔が並ぶ双塔式伽藍配置は新羅に類例が見られ、東アジアとの交流の中で当時の最先端技術と文化が取り入れられています。なお、本薬師寺跡の南東一帯には弥生時代の円形周溝墓(瀬田遺跡)が発見されています。古墳時代の周濠はこの周溝墓の溝から発展したといわれています。また、考

主なコース

1. 近鉄畝傍御陵前駅東口広場
↓
2. 本薬師寺跡～光明寺～木殿神社
↓
3. 八幡神社・日高山
↓
4. 日高山瓦窯跡
↓
5. 藤原京朱雀大路跡～朱雀門跡
↓
6. 朝堂院南門跡
↓
7. 大極殿院南門跡
↓
8. 大極殿跡
↓
9. 檀原市藤原京資料室
↓
10. 西面南門
↓
11. 藤原宮西南隅～鷲栖神社
↓
12. おふさ観音
↓
13. JR畝傍駅・貴賓室
↓
14. ミグランス展望室

古学的な調査では、飛鳥川北東一帯に所在する四分遺跡（弥生時代）の墓域に位置づけられています。



木殿神社

このあと、藤原京造営時に木材集積地のあった場所と伝えられている光明寺・木殿神社に立ち寄りしました。すぐ東を流れる飛鳥川から運河を掘り、木材を運び込んでいたと伝えられています。

続いて、飛鳥川沿いに南東に歩き、八幡神社、日高山の微高地から北方の藤原宮を遠望しました。少し歩くと東



日高山瓦窯跡

側に朱雀大路の説明板「史跡 藤原京朱雀大路跡」、西側には日高山瓦窯跡の

日高山瓦窯は、藤原宮の造営を支えた瓦生産工房。穴窯と平窯があり、計9基の窯跡が見つっています。ここで造られた瓦は、主に藤原宮の外周を巡る大垣（掘立柱土塀）に葺かれました。藤原京に使用された瓦は計200万枚以上といわれ、和泉国、近江国、播磨国などからも供給されていました。



九九木筒

参加者は、ここからメインストリート（当時は幅約25m）である朱雀大路跡を北へ歩きました。

本薬師寺跡に建立されている万葉歌碑
 （『万葉集』巻三―三三四 大伴旅人）
 忘れ草 わが紐に付く香具山の故りにし里を
 わすれむがため

（大意）わすれ草を私は紐に付けているよ。香具山の見える懐かしい故郷を忘れるために…。

※訪問時、文化サークルにも入会されている会員二名がこの万葉歌を朗唱されました。



小高い丘がありました。なお、このあたりから国内最古級の「九九木筒」（掛け算の早見表）が出土して、注目されました。



史蹟「朱雀大路跡」の説明板



広大な大極殿院南門跡周辺。礎石柱モニメントの右端に並んで見えるのが昼食後休憩中の参加者。バックに天香具山。



朱雀大路跡をたどり北の大極殿跡へ向かう。遠くに耳成の山容が見える。

朱雀門は藤原宮の南面中央の門。また、朝堂院南門跡の広さは東西 25m × 南北 10m。朝堂院は大極殿の南に位置し、役人が実際に仕事や儀式を行ったところで、現在の東京・霞が関官庁街に相当するとの説明がありました。

大極殿南門の大きさは東西 35m × 南北 10m。『日本書紀』の記述から、大宝元年（701）正月に文武天皇が南門の前に 7本の幢幡を立て、元旦朝賀の儀で、「文物の儀、是（これ）に備（そなは）れり」と、高らかに宣言された、との解説がありました。

大極殿は朝廷の正殿。国家行事や儀式を行う際に、天皇が出御。現在の国会議事堂に相当します。規模は東西 45m × 南北 20m × 高さ 25m（基壇 2m 含む）。

ここで、藤原宮を詠んだ「御井（みみ）の歌」（万葉集巻 1-52）が披露され、「大和三山」と藤原宮が強くつながっていることが強調されました。（次頁に掲載）

次いで、藤原京資料室のジオラマで藤原宮跡や藤原京の全体を見ました。この後、向かったのが西南南門、そして高さ 5.5m の大垣を見学。宮殿では初めての瓦葺・掘



藤原宮西面隅の表示板



西面南門

立柱・土堀で、日高山瓦窯で製作された瓦が屋根に葺かれました。続いて、藤原宮西南隅に立ち寄り、東方にある朱雀門跡を遠望しました。鷲栖神社のあと、おふさ観音

を参拝。」R 畝傍駅・貴賓室を経て、「ミグランス 10 階展望室」から眼下の飛鳥・藤原地域を遠望し、「大和三山」に囲まれた藤原宮・京の広さを実感しました。



おふさ観音境内（左）と、榎原市役所分庁舎（ミグランス）10階展望室から南東方向の藤原宮と本薬師寺跡を望む（右）。ガラス表面には東塔と西塔（三重塔）のイメージ図が描かれている。南西奥には畝傍山がみえる

藤原宮の御井の歌

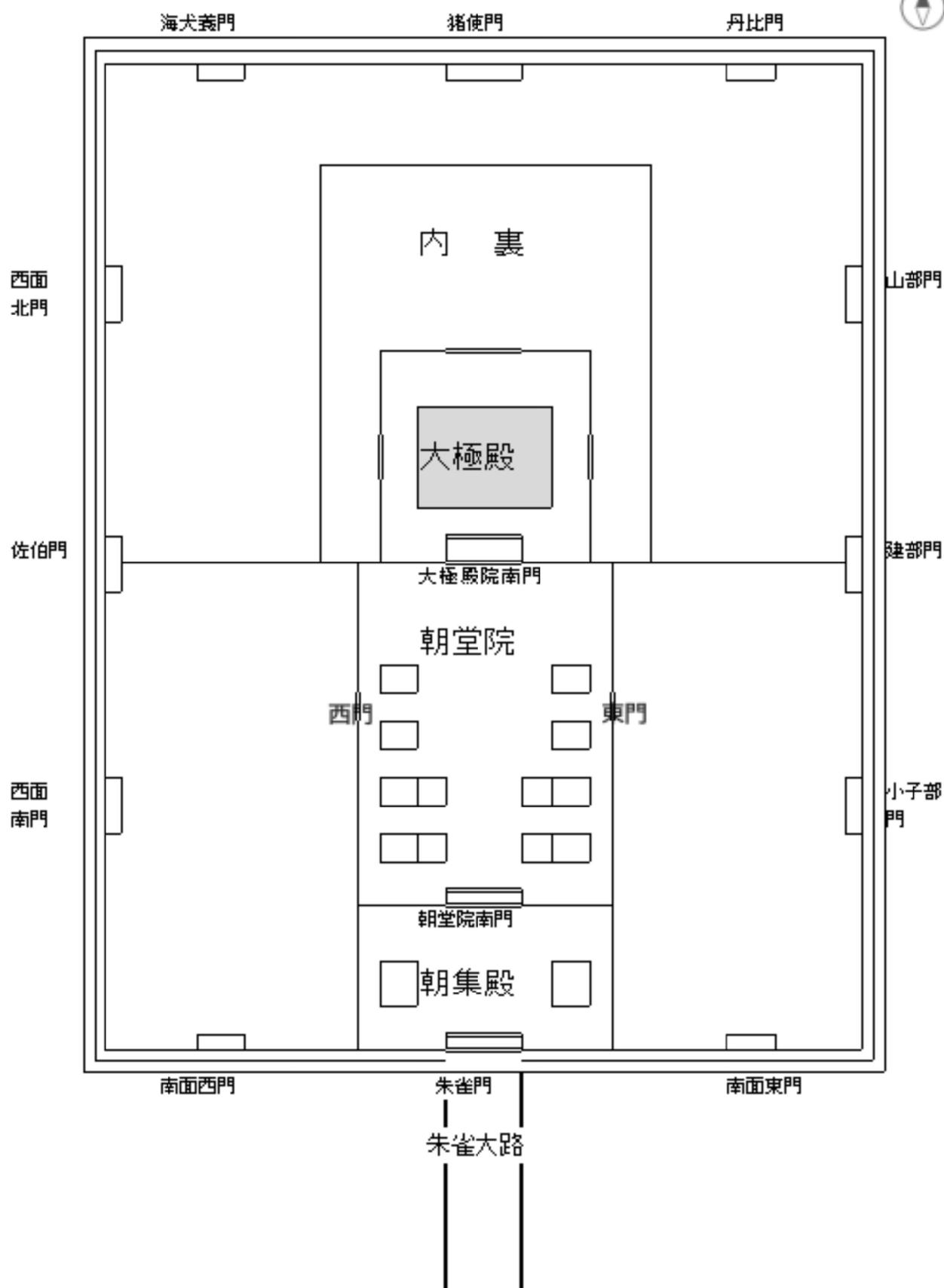
〔『万葉集』巻一―五二 作者未詳〕

やすみしし わご大王 高照らす 日の皇子 荒栲の 藤井が原に
 おほみかど 始め給ひて 埴安の 堤の上に あり立たし 見し給へば 大和
 の 青香具山は 日の経の 大御門に 春山と 繁さび立てり 畝火の こ
 の 瑞山は 日の緯の 大御門に 瑞山と 山さびいます 耳成の 青菅山
 は 背面の 大御門に 宜しなべ 神さび立てり 名くはし 吉野の山は
 影面の 大御門ゆ 雲居にそ 遠くありける 高知るや 天の御陰 天知る
 や 日の御蔭の 水こそば 常 にあらめ 御井の清水

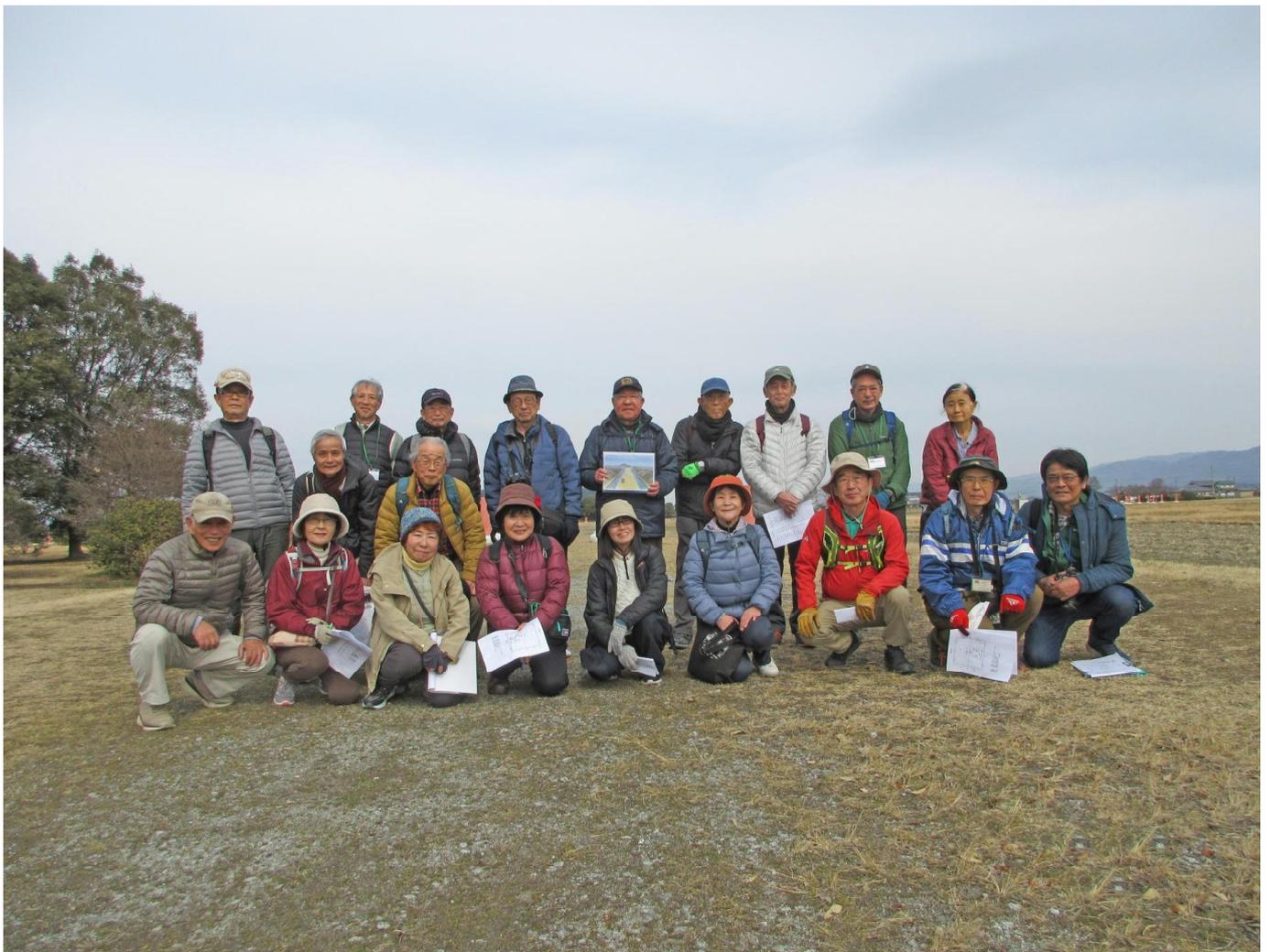
（大意）

わが大王、天皇が、藤井が原に宮を造り始められ、埴安池の堤の上に立たれて
 ご覧になると、大和の青香具山（天香具山）は、日の経（東）の大きな御門（み
 かど）に春山らしく立ち、畝火（畝傍山）のみずみずしい山は、日の緯（西）の
 大きな御門に瑞山らしく立っている。耳成の青菅山（耳成山）は、北側の大きな
 御門に形よく神々しく立っている。名高い吉野山は、南側の大きな御門から遠い
 雲の彼方にある。この聖なる山々に囲まれたこの宮の水、御井の清水は、永遠で
 あってほしい。

藤原宮跡



藤原宮 = 東西 925 m × 南北 907 m 面積 84 ha
 大極殿院 = 東西 117 m × 南北 158 m
 大極殿 = 東西 45 m × 南北 20 m × 高さ 25 m (基壇 2 m 含む)
 = 9 間 × 4 間 × 5 間
 大極殿南門 = 東西 35 m × 南北 10 m = 7 間 × 2 間
 朝堂院南門 = 東西 25 m × 南北 10 m = 5 間 × 2 間
 朱雀大路 = 幅約 25 m (平城京は 74 m、長岡京 66 m)
 大垣 = 高さ 5.5 m 瓦葺 掘立柱 土塀
 外濠 内濠 = 大垣の外側(幅 5m) と内側(幅 1.8m) には濠を廻らす
 瓦 = 200 万枚以上 ▽ 礎石 = 2544 点 (1.6 × 1.2 m) ▽ 木材 = 5248 本 (大垣除く)



朝堂院南門跡の広場で記念写真

(文と写真：27期佐藤／資料提供：25期 水野／写真提供：16期 佐々木、30期 上田)